

## 申6号「2022年度年末手当等に関する申し入れ」への

### 『低額回答』に対する怒りに立ち組織拡大を目指す声明

2022年11月11日、2022年度年末手当等に関する申し入れに「覚悟を持っての最大限の回答」が会社により示された。回答は私たちの要求額である「3. 3カ月＋一律5万円」には到底及ばない『低額回答』であった。まず冒頭「会社から示された回答には納得できず怒りしかない」ことを私たちは明らかにする。

- ①赤字とコロナ禍の経営環境において黒字転換に向けた職場からの努力と期待に報いた回答ではない。
- ②「変革2027」の実現に向けた施策にふまえた「過去最高の働き度」に一切報いている実感が無い。
- ③度重なる物価上昇や円安等の影響による組合員・家族の生活を守る回答ではない。
- ④『低額回答』にも現れた経営姿勢は、組合員のモチベーションを下げ、人材流出・離職につながる危機意識を払拭せず増長させかねない。

など、懸命に働く私たちの声を受け止めない経営姿勢に対し「怒り」が身体中を脈うっている。

回答書では「御礼」と「黒字の確保」「皆さんと一緒に取り組んできた、職場改革、業務改革、働き方改革などの構造改革の着実な進展が黒字決算の大きな要因になっていることも言うまでもありません。」と述べる一方、「本業の力を示す営業利益は業績予想に及ばず」「コロナ禍において有利子負債がすでに1兆円以上増加している状況」「先行きについては、不透明感がある」と述べ、現場第一を無視した『低額ありき』の口実だと言える。さらには「これまで以上に積極果敢に増収とコストダウンに向けた様々な取り組みを進めていく必要があります」とし、『人への投資』も感じられず、今後さらに「馬車馬のごとく働け」としか聞こえないのだ。

職場からの声は「物価上昇の現実をみていない。コロナ前でも先行き不安と言っていたし黒字でも出し渋るのはいい加減にしてほしい」「正直がっかりした。もう少し期待はしたしまだ出せる。裏切られた」「職場はため息が出る重い空気だ」「(物価高など考えたら) 今年の2. 0カ月ベースと実質同じだ。『2. 0カ月ベース』をつくろうとしていないか」「どの状況を達成したら満額なのか、満額近く支給するのか全社員にハッキリと示してほしい」「委員会をやっている人から、貧乏くじを引いた。やるだけ損だよと言われている」「子供の習い事を一つ減らした」など、「納得できない」怒りと落胆の声が寄せられ、日に日に『低額回答』に対する怒りが増すばかりである。

組合未加入者ならびに社友会に所属している良心的な会員の皆さん。

「家族の顔・共に職場で汗し働く仲間の顔」を思い浮かべ会社回答を考えよう。自身は「本当に会社回答に満足しているのか」「本当に納得しているのか」「本当に経営姿勢を是認・黙認する今のままで良いのか」と。また社内における「大多数の声」として存在する社友会では、今後さらに「賃金や労働条件等」は引き下げられる一方にある。社友会では『働く会社を良くするどころか、共に働く仲間・家族の利益を守れない』ことを真摯に受け止め、労働者らしく、人間らしさを追求する私たちと共に行動していこうではないか。

JR 東労組八王子地本は、全組合員ならびに組合未加入者に強く訴える。

- ① JR 東労組八王子地本は2022年度年末手当等の『低額回答』に妥協も納得もしない。
- ② 組合員・未加入者に『当たり前』寄り添い、中央本部と共に「2022年度年末手当等に関する会社回答」に対し議論を創り出していく。
- ③ さらなる「賃金・労働条件の引き下げ」につながる危機意識があり、「変革2027」の実現に向けた施策等『JR構造改革』に『新たな施策に対する5本柱』をもって強い立場で向かっていく。
- ④ 組合未加入者と労働組合の役割と必要性を一緒に考え、危機意識を共有し、JR 東労組への再加入・新規加入による組織強化・拡大を通じて『1万人組織』を目指す。

再度訴える！

JR 東日本経営陣は『低額回答』を即時撤回し、要求に報いるべきである！

以上、見解とする。

2022年11月14日  
東日本旅客鉄道労働組合  
八王子地方本部執行委員会